

B-136 立衿に関する基礎的研究

早稲田大学 伊藤香三郎

和洋女大文家政 村田八千代 ○前田頼子

目的 被服構成する場合、たとえば1枚のドレスを製作する時、衿の形は、デザインする上において大切であり、流行に大変左右されるものである。1978年頃から、流行している立衿について、その形態構造と、その着用者の体型等を考え、どのような場合が、最もよく適合するかを検討することを目的とした。

方法 トップ及び立衿を作成し、被験者を選び、シルエットで形態を計測し、着用実験を行い、適否を観察した。立衿は、従来用いられている製図法により、5種類作製した

結果 最も着心地がよく、被験者も観察者も美しいと思ひ、機能的でもあるとされる立衿は、次の3条件に大きく支配されると考えられる。

- 1) 立衿の形
- 2) 頸付根圍のフィット、ニグ
- 3) 頸の形態 (頸の傾斜・頸の太さ等)